

がん診療連携拠点病院 東京都の場合

がん・感染症センター
都立駒込病院
佐々木 常雄

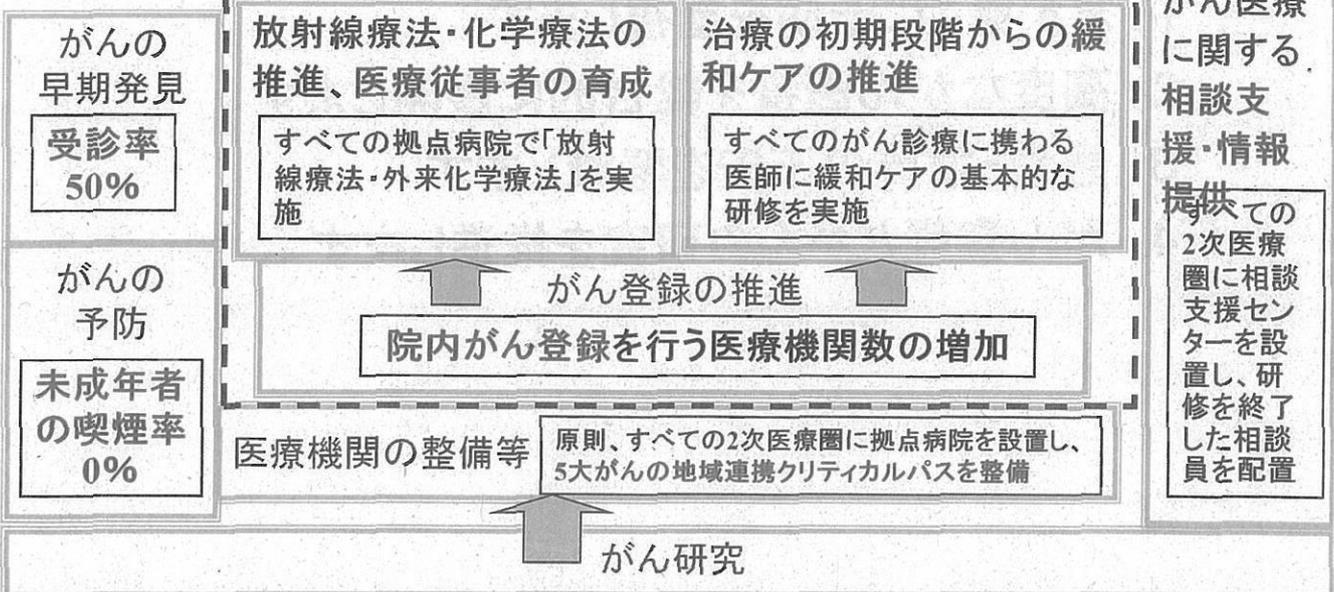
がん対策推進基本計画

全ての患者・家族の安心

がん死亡者の減少
(20%減)

全てのがん患者・家族の苦痛の
軽減・療法生活の質の向上

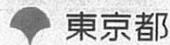
重点的に取り組むべき事項





東京都
がん対策推進計画

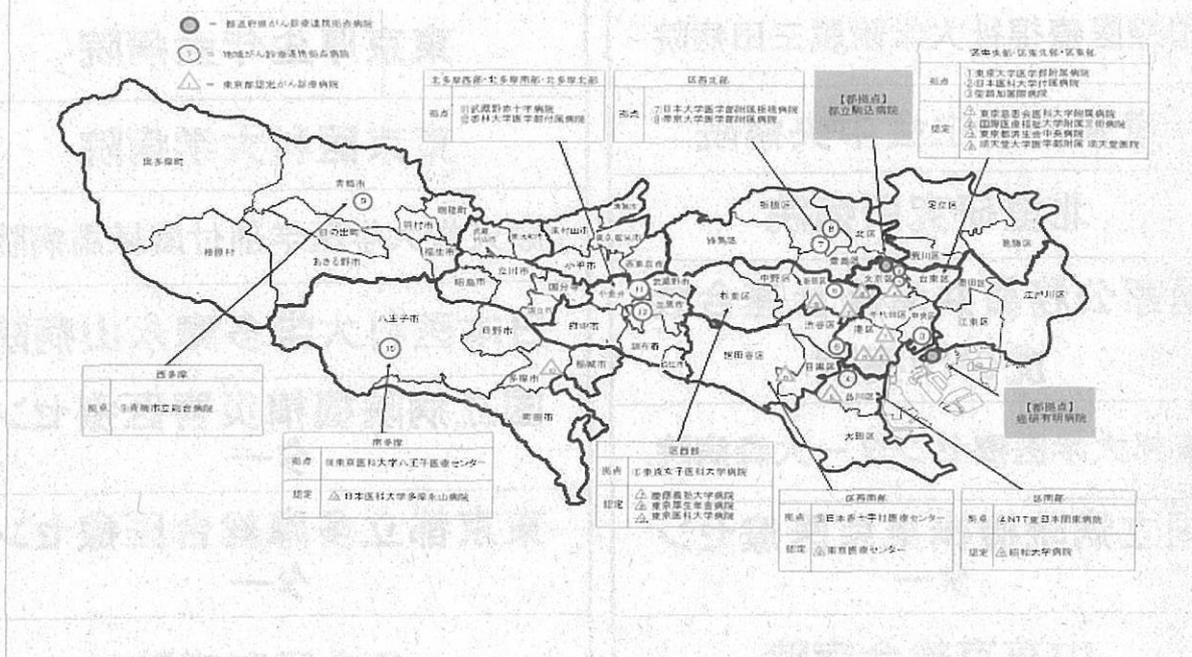
平成20年3月



東京都
がん対策推進計画 基本方針

- 1 まず第1に予防を重視します
- 2 高度ながん医療を総合的に展開します
- 3 患者・家族の不安を軽減します
- 4 がん登録とがんの研究を推進します

図1 東京都におけるがん診療連携拠点病院・東京都認定がん診療病院整備状況



東京都がん診療連携拠点病院一覧(H20⇒22年)

■都道府県がん診療連携拠点病院(2ヶ所 H20年)

東京都立駒込病院

癌研究会有明病院

■地域がん診療連携拠点病院(12⇒14ヶ所 H20⇒22年)

東京大学医学部附属病院

順天堂大学医学部順天堂医院

日本医科大学付属病院

聖路加国際病院

NTT東日本関東病院

昭和大学病院

日本赤十字社医療センター

東京女子医科大学病院

日本大学医学部附属板橋病院

帝京大学医学部附属病院

青梅市立総合病院

東京医科大学八王子医療
センター

杏林大学医学部付属病院

武蔵野赤十字病院

東京都認定がん診療病院一覧(10⇒16ヶ所)

東京慈恵会医科大学附属病院
国際医療福祉大学附属三田病院
東京都済生会中央病院
北里研究所病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
東邦大学医療センター大森病院
国立病院機構東京医療センター
JR東京総合病院

慶応義塾大学病院
東京厚生年金病院
東京医科大学病院
順天堂大学医学部付属練馬病院
日本医科大学多摩永山病院
国立病院機構災害医療センター
東京都立多摩総合医療センター
公立昭和病院

都道府県がん診療連携拠点病院の役割

都におけるがん医療ネットワークの中心として、「地域がん診療連携拠点病院」と連携して下記のような取組を行うことにより、都におけるがん医療の推進を目指す。

都道府県がん診療連携拠点病院

東京都立駒込病院

都道府県がん診療連携協議会の設置

院内がん登録データの収集分析評価

地域連携の推進

癌研究会有明病院

がん専門医等の教育

がん医療従事者の質の向上

☆ 東京都・がん診療連携協議会

都道府県がん診療連携拠点病院 2病院

地域がん診療連携拠点病院 12⇒14病院(22年より)

東京都認定がん診療病院 10⇒16病院(22年より)

自分達の病院が、一番だ、すごい、と言っているのではなく、みんなで協力して、がん医療に立ち向かう

各病院の近くの病院、医師会、診療所とも連携

東京都がん診療連携協議会の役割

1. 当該都道府県におけるがん診療の連携協力体制及び相談支援の提供体制その他がん医療に関する情報交換を行うこと。
2. 当該都道府県内の院内がん登録のデータの分析、評価等を行うこと。
3. がんの種類ごとに、当該都道府県においてセカンドオピニオンを提示する体制を有するがん診療連携拠点病院を含む医療機関の一覧を作成・共有し、広報すること。
4. 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院への診療支援を行う医師の派遣に係わる調整を行うこと。

(厚生労働省「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」)

東京都がん診療連携協議会の役割(2)

- 4 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が作成している地域連携クリティカルパスの一覧を作成・共有すること。また、我が国に多いがん以外のがんについて、地域連携クリティカルパスを整備することが望ましい。
- 5 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が実施するがん医療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修その他各種研修に関する計画を作成すること。

東京都がん診療連携協議会

20年6月30日 第1回会議 於:駒込病院

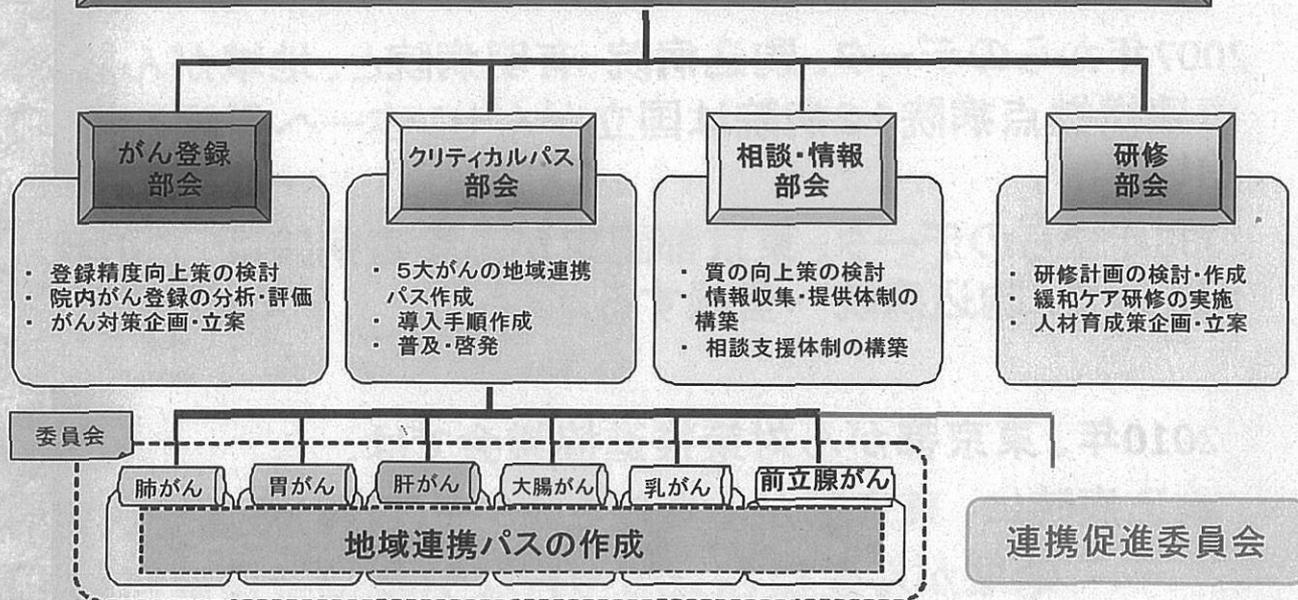
最初2+12+10病院+都医師会

まず、部会を作った (現在2+14+16病院+都医師会)

- がん登録部会
- クリニカルパス部会
- 相談・情報部会
- 研修部会

- さらに 緩和ワーキングを作った
(22年11月、緩和ケアのあり方検討部会発足)

東京都がん診療連携協議会



がん登録部会

どこの病院が 乳がん に強いのか？なども分かる

がん登録

公開

がん登録は、がん患者の罹患、転帰その他の状況を登録、分析し、がん対策の立案、評価に役立つ重要な役割を荷う

- 院内がん登録: 各病院のがんの診断・治療を受けた全患者の診断・治療・予後に関する情報を登録する

治療成績 等 詳しいデータであり、診療にも役立つ

地域がん登録: 対象地域の居住者に発生したすべてのがんを把握することにより、がんの罹患率と地域レベルの生存率を計測する仕組み

東京都はこれまで行なっていない

なぜ、東京都の女性がんで、大腸がん、肺がん・乳がんなどの死亡率が他に比べて高いのか？ 分かっていない。

科学的にはっきりさせ、対策をはかるのに必要

がん登録

2007年からのデータ、駒込病院・有明病院と、地域がん診療連携拠点病院12病院は国立がんセンターへ登録を開始した。

2008年からのデータ、東京都認定がん診療病院は、この状況を見て、駒込病院へ登録する

2010年、東京都がん対策推進協議会では、
駒込病院に 東京都がん登録センター(仮称)設置を決定
地域がん登録もしっかり行なう(都福祉保健局)

- 予後調査に壁： 全国の拠点病院が苦慮

がん登録

東京都は、大病院(14大学病院本院等)、ばらばらで、

長年、院内がん登録、地域がん登録が出来ることは、考えられなかった

拠点病院の制度で、地域がん登録もスタート
できることになった

拠点病院の制度で 大きく進歩した。

みんなで協力して、がん医療に立ち向かうことになった

がん難民をなくそう

クリニカルパス部会

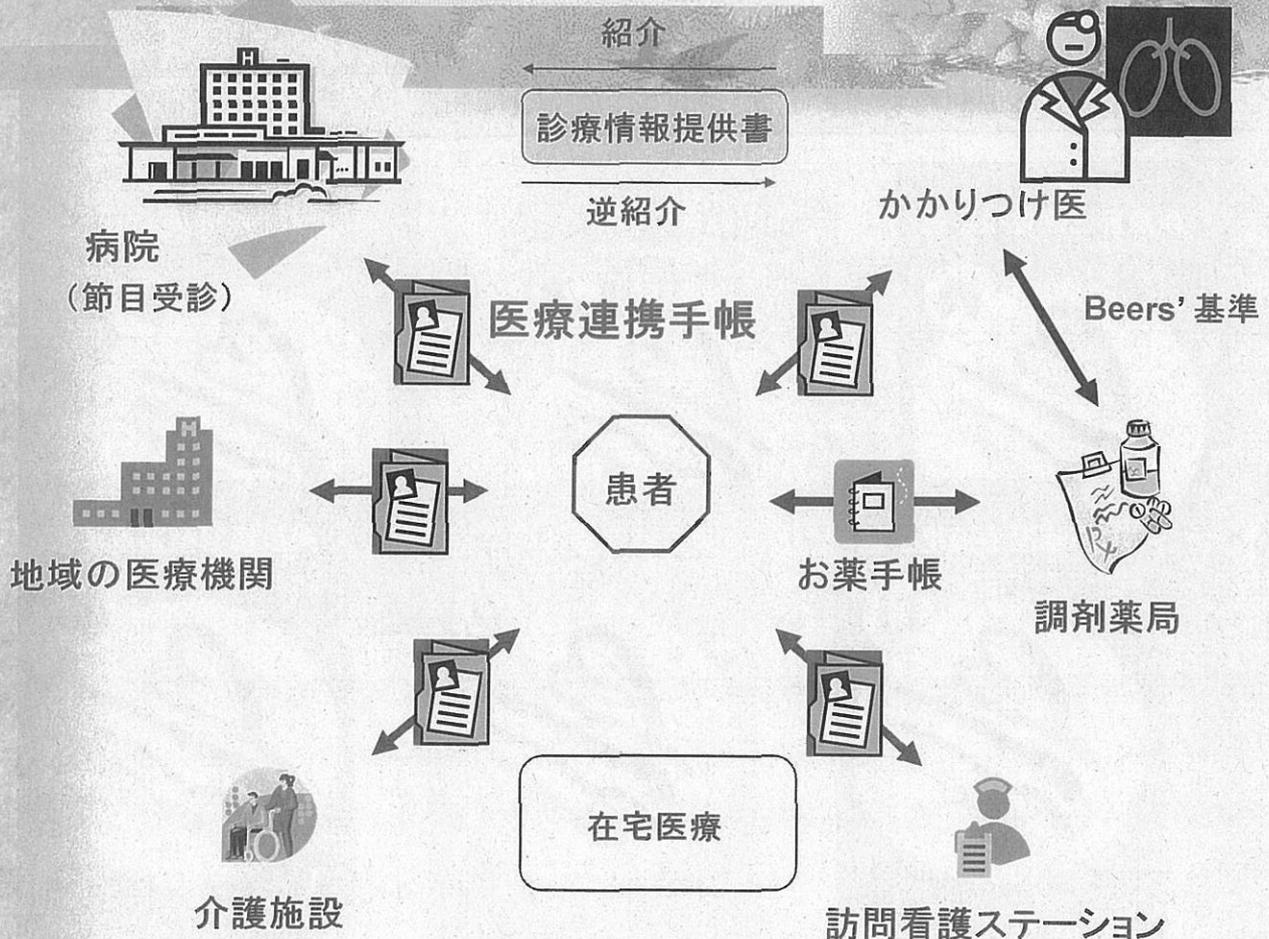
地域連携クリニカル・パスの整備

拠点病院と診療所との連携により、在宅でも適切な
外来化学療法や緩和ケアが提供できる体制

何かあっても、病院でも、診療所でも 状況がすぐ分かる

- 5大がん(肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん)について
- 東京都全体での 統一フォーム
(二次医療圏とはいっても、東京の地域拠点病院は地域入り
乱れている)

病院と診療所 両方で簡便化したカルテを持つ



東京都における地域連携クリニカル・パス

2+14+16病院+国立がん研究センター中央病院
+都医師会

胃がん、肝がん、肺がん、大腸がん、乳がん
それぞれに 33病院から代表出いただく
医師会からも各代表委員
各ワーキング・グループでパスを作成
2010年4月から 診療報酬加算

前立腺がんもスタートへ

クリティカルパス手帳

東京都医療連携手帳



東京都医療連携手帳



東京都医療連携手帳



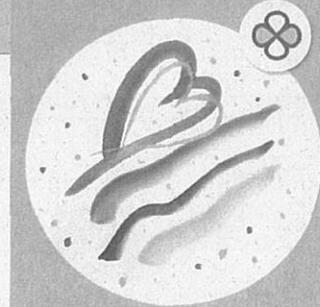
東京都医療連携手帳



東京都医療連携手帳



東京都医療連携手帳



都全体で地域連携クリティカルパスを運用するための仕組み作り

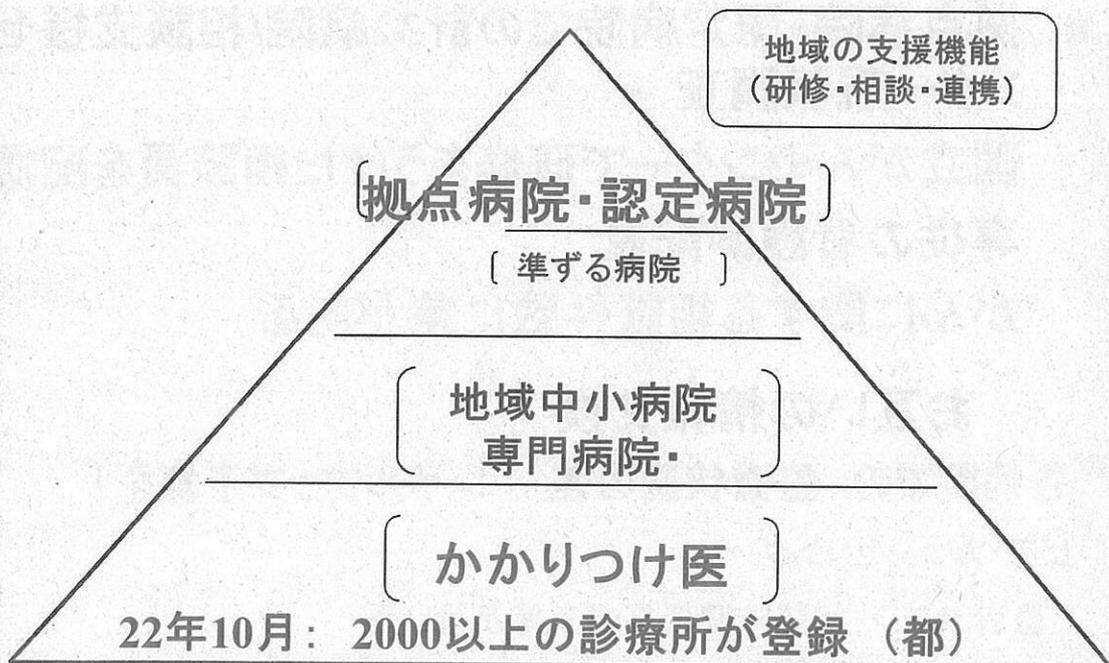
○ 平成22年4月の診療報酬改定

◇ がん診療連携拠点病院・東京都認定がん診療病院
・それに準じる病院など
(計画策定病院)
「がん治療連携計画策定料」750点

◇ 病院・診療所など
(連携保険医療機関)
「がん治療連携指導料」300点

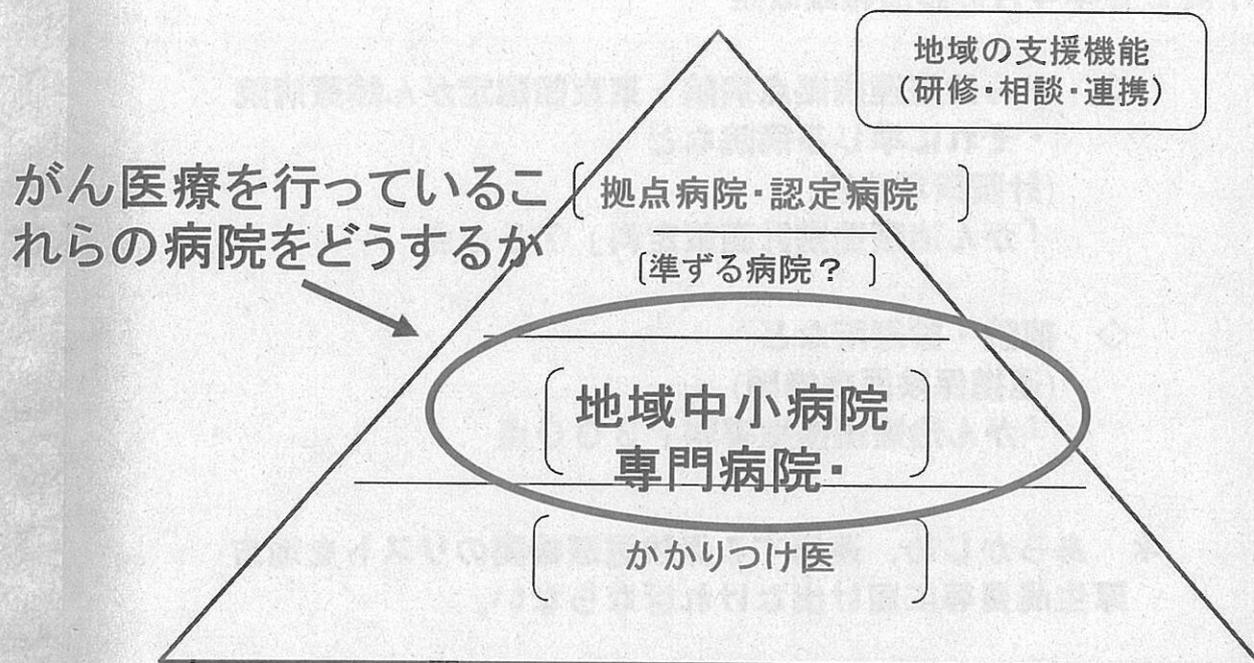
* あらかじめ、連携する保険医療機関のリストを地方
厚生局長等に届け出なければならない。

がん治療連携計画策定料 H22年4月から



次のがん対策基本計画に大切

がん治療連携計画策定料



相談・情報部会

- 拠点病院・認定病院での計32病院/相談支援センター現状調査
国立がんセンターで研修を受けた相談員を配置
専従の看護師配置
がんに関する相談件数に差がある

お互いの情報交換

各病院での 整備状況の差 レベルアップ予算を!

ピア・カウンセリング

患者サロン・相談時間延長の予算が付いた

相談・情報部会

セカンドオピニオン

病院・分かりやすい、探しやすいようにしてインターネット等での公表

例：肝臓がん：セカンドオピニオンできる病院一覧

相談・支援センター

課題：病院経営がきつい状況で、診療報酬に関係ない相談・支援センターに どれだけ人を配置できるか

夜中のコールセンターは、精神状態がきつい状況にある方があり、精神腫瘍学会の協力が必要

研修部会・ 癌研有明病院担当

医療者の研修

■ 緩和ケア研修

すべてのがん診療に携わる医師が研修等により基本的な知識を習得〔5年以内〕

2日間、12時間以上、講義とワークショップ形式の研修

東京都・推定医師・1万人以上の医師

まず、講師となる医師を増やすための研修

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

全国統一した研修 スライド

日本緩和医療学会が中心に作成

がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会

まる2日間、

ワークショップ(Work + Shop) = 作業場

目標 → 討論・作業 → 成果(Product)

第 159 号

修了証書

佐々木 常雄

あなたは東京都立駒込病院（都道府県がん診療連携拠点病院）がん診療に
携わる医師に対する緩和ケア研修会を修了したことを証します

平成21年 3月 8日

東京都立駒込病院 院長 佐々木常雄



東京都立駒込病院（都道府県がん診療連携拠点病院）

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会主催者 殿

本研修会は「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」

（平成20年4月1日付け健発第0401016号厚生労働省健康局長通

知）にのっとりたものであると認めます

平成21年 2月23日

厚生労働省健康局長 上田 博



東京都・緩和ケア研修(医師)

20年度 7回

21年度 28回

21年11月 12回終了 計489人 終了

22年11月 計1668名 終了

講師 65名 精神腫瘍学会から協力医 24名

10年間で 1万人研修を！

課題 講師を増やすこと

その他の医療従事者 研修・教育

医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師の各小委員会設置

- 拠点病院・認定病院として 各病院で研修、公開講座等がなされている
- 医師：薬物療法・放射線治療
- 看護師：がん化学療法・痛みの看護等
- 薬剤師：がん化学療法における安全対策等
- 放射線技師：精度管理等
- 医師、合同研修（緩和ケア等）

各 14～120名

がん登録・地域連携クリニカルパス・医療者の研修・相談支援センター等、、、

これまで 大学病院とか、大きな病院が、連携して、一緒に行なうことは、がん医療においてはありませんでした。

課題は多く残っていますが

拠点病院・認定病院は力をあわせて、がんばっています

がん対策推進基本計画

4年目

拠点病院の整備で

がん対策はかなり進んだ

拠点病院、認定病院は独自ではなく、都の医師会も一緒に協力してくれている。

東京都では過去には絶対出来なかった

がん登録、連携パスなど、大きな進歩が見られる

引き続き 次の5年計画に さらなる発展を期待する

